

平成27年度三次市公共事業評価監視委員会【議事要旨】

開催日時 平成28年2月3日（水） 15時10分開会 17時10分閉会

開催場所 三次市役所607会議室

出席委員 戸田常一委員長，高井広行委員，松岡眞理子委員，前田奈美委員，
田村謙宗委員

市出席者 高岡副市長（諮問のみ）

建設部 上岡部長，坂井都市建築課長，浜口係長，宮本主任

政策部 藤井部長，宮脇企画調整課長，杉谷主任主事，田邊主任主事

議事 三次市中心市街地地区都市再生整備計画の事後評価

戸田委員長の進行により議事に入る。

議事録署名人として，田村委員，前田委員が指名された。

1 事後評価制度の概要説明

2 三次市中心市街地地区の事業計画説明

議事1・2を担当部署より一括して説明（審議は議事3・4で実施）

3 事後評価手続き等にかかる審議

事務局 （担当部署より説明）

※方法書，実施過程の評価，事後評価結果の公表については担当部署からの報告があり，委員から特段の意見はなかった。

委員長 審議のポイントのシートに沿ってご意見をいただきたい。

一つは「成果の評価」について，もう一つは「効果発現要因の整理」について，質問でも結構なので何か意見はあるか。

委員 いろいろと理解しにくい点があるのだが，まず1点目に，アンケート調査の基本となる従前値は平成22年の調査であるが，対象者が中心市街地地区の住民となっている。一方，事後の調査では，十日市・三次・粟屋・八次地区の住民からランダムで抽出されている。サンプリングの地区の取り方はこれでいいのかどうか。

2点目に，これらを比べて効果が「ある」「ない」，「満足」「満足でないか」

を見ると、従前値はサンプルを 150 取って、そのうち有効の数が 112 しかない。一方で、事後の調査では、これを反省されたのかどうか、906 通集められている。この時、基本となる従前値のアンケート結果はそのまま使えるかどうか不安である。

また、資料 40 ページに書いてある従前値と事後評価を見ると、従前値が計 806 となっているが、これはどこのサンプルなのか。112 ではなかったのか。3 点目に、指標 1 で、駅周辺の各施設利用者の満足度と書いてあるが、何の施設の満足度なのか。

事務局 まず 1 点目のサンプル数について、従前値 150 に対して事後評価が 2,000 となっていますが、従前は、内容を駅周辺整備の整備前の状況を調べるアンケートとして行いました。事後評価で 2,000 にした根拠としては、

河川空間の利用に関するアンケートと併せて実施するためです。河川空間の利用に関するアンケートを平成 21 年に 2,000 サンプル実施しており、この時 806 の回答がありましたが、そのことについて、今回の資料に記載していませんでした。従前値としてはサンプル数 150 と 2,000 のそれぞれのアンケート結果を使っていますが、事後評価としては駅周辺と河川空間のアンケートを併せて実施しています。資料 5 にアンケート調査の結果とアンケート票を添付しています。

委員 従前に行ったアンケート調査の内容は事後に行ったものと同じか。比べるには同じ調査内容である必要がある。

事務局 まったく同じ設問で行っています。資料 5 の 4 ページを見ていただくと、上側が事後に行ったアンケート調査、下側が従前に行った調査結果になっています。

サンプル数については、従前の 150 は自治会中心に配っており、作為的な部分があったので、事後は中心市街地周辺に住んでいる人に対して 2,000 サンプルの調査を行っています。

委員 作為的に行ったアンケートの値をもとに、議論をすることは危険である。また、有効なサンプルが 112 という数の中で議論していくことについても同じく危険である。評価の結果を議論するとき、その点をはっきりしておかなければいい加減な結果になり、比べても当てにならないのではないか。アンケートを行う時に気を付けなければならないし、いろいろな評価をする時に結果が使えないということになってしまう。これらの結果を使

って評価をすることは問題があるのではないか。

委員長 従前値の中心市街地の地区と事後評価の地区範囲は一緒なのか。

事務局 はい。一緒です。

委員長 同じ配布率で今回のアンケートが配布されているかどうか。

事務局 事後は、十日市・三次・八次・粟屋地区において無作為抽出で配布しています。

委員長 従前と同じ比率か。

事務局 従前とは配布比率は違います。

委員長 データとしては地区別データがあるので、少なくとも地区間の重みを統一した形で集計し直すと、サンプル数の違いはあるが比較は可能になってくると思う。

委員 施設利用者の満足度について、このパーセントは資料5の4ページにある7項目のうちどの項目のことを指しているのか。

事務局 総合満足度の7番目を指しています。

委員長 河川のアンケートについて、従前の実施の時期は事後の10～11月と同じ時期に実施しているのか。

事務局 資料3の3ページに記載していますが、アンケートは平成21年の4月に行っており、時期は異なっています。

委員長 4月の利用状況と10月の利用状況とでは季節性が違う。季節が春と秋とで利用状況が違うのであれば、その点も調整しておく必要がある。

事務局 国が示しているマニュアル上、事業実施年度の最終年度で事後評価を行うよう定められており、整備が終わり一定の時間をおいてアンケートを行う必要があったため、10月に実施しました。今後、フォローアップでアンケートを行うにあたり、季節を対応させたいと考えています。

委員長 河川空間の利用に関して、季節的なバイアスがかかっているという事である。また、委員がおっしゃるように、駅周辺については、配布・回収方法が同じでないと比較できない。自治会となると、ある程度活動している人、例えば役員の方などの意見になってしまうのではないか。事後は一般の人を対象にアンケートを行っているので、回収率が従前と事後で違うことについては、理解できた。他に意見はあるか。

委員 達成度に関して、◎○×△の付け方の基準ははっきりしておかないといけない。主観的に付けるのはあまり良くない。必ず客観的な評価で付けて

いく必要がある。「△」だと思ふ人、「×」だと思ふ人などいろいろな意見が出て、誰が◎○×△を付けたかによって評価が変わってくる。この評価の結果も危ないのではないか。

事務局 達成度の○×△については資料2に示してあります。「○」は「評価値が目標値を上回った場合」、「△」は「評価値が目標値に達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合」となっている。「◎」は「事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献したもの」となっています。

委員 「貢献した」「貢献していない」を誰が決めるのかということを行っている。裏付けとして客観的な数値が必要で、そういう評価をしないと、定性的な評価になり結果がバラバラになってしまう。

委員長 「◎」については、「効果発現要因の整理」のカテゴリーで、○△×は「目標達成に係る達成度」で示されているもので種類が違う。○△×の評価については定義が明確になされているが、一方で、効果発現については、「直接的に貢献した」「間接的に貢献した」とあり、これは定義になっていない。「直接」「間接」をどう判断するか、「貢献した」「貢献していない」は何をもってどう判断するかということが問題である。

さて、効果発現について議論が入ったので、効果発現のところについてご意見をいただきたいと思う。

先ほどの◎○△の定義をどうするかという点についての意見があったが、実際には事務局で作業して評価されていると思う。感覚的なものかもしれないが、その経験は大事だと思う。その経験を明示化することが必要で、見える化する時に、どの基準で評価したのかをきちんと定めることが必要で、◎○△だけではダメだというご意見だった。

委員 総合所見として、全部の事業をまとめて記載されており、「経験的にこうだろう」ということで事務局が記載されたものと思われる。このことについても、「どの事業がどうなっているから総合所見としてこう言える」という部分が見えないので、内容がよくわからない。まず、個別の事業における、まちづくりに対する効果や特徴があり、その次に総合所見があるべきと思う。

委員長 おそらく、交付金の出元から「評価の結果をこの様式で提出しなさい」という枠組みがあり、それをそのままこの場に出されている状態だと思う。

評価の結果を出すためのベースになるデータがあるはずで、それをきちんと整理して出す必要があるという意見である。

委員 「効果がある」「ない」について言っているのではなく、わかりやすいようにしてほしいということである。

委員 判断の元になった数字はないのか。

事務局 例えば、市民ホールに関する項目には「◎」が付いていると思いますが、これは、指標に直接係る事業になります。一方で、市道三次 116 号線の整備などに「○」を付けていることについて、判断基準がどうなのかということの説明が難しい部分がありますが、関係部署が集まって協議した結果で評価しています。

委員長 その協議された結果を詳しく整理する必要がある、それについて資料を添付してほしい。貢献度について、明示されている結果が正しいか誤りかということではなく、根拠がわかりにくいという意見である。

委員 資料の 48 ページについて、「△」がついている部分がある。「△」は「効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった」という基準で評価されたものであるが、総合所見との関係でみると、駅周辺施設については「利用期間が少なかったことが要因だ」と書いてあり、これとの関連が全くないと思う。利用機会が少なかったから効果が出なかったということであれば、基幹事業が悪かったということではないので、「△」は外してもいいと思う。

事務局 数値目標を達成できなかった指標ではあるが、アンケートで満足度が上がっているということで整理し、「△」としました。

委員長 言い換えると、「本来は個々の事業について効果が期待できると考えていたが実際は出ていない。理由は期間が短いから。」というということが書いてある。「△」については、こういうカテゴリーで書くようにという国の指定がある。

委員 特にこの事業が悪かったからということで、「△」を付けているというわけではないということか。

事務局 はい。

委員 なぜ「△」なのか。結局、どれかが「○」かもしれない。

事務局 指標を達成できなかった項目については、国の基準によると「××」か「×」か「△」か「—」しか表示できないようになっています。

委員 無理やり当てはめようとするから、わけがわからなくなってしまう。

委員 全部「一」でもいいのではないか。総合所見と対応していないと思う。話が戻ってしまうかもしれないが、指標1については駅周辺の各施設利用者の満足度としているのに、駅周辺施設の利用頻度についてアンケートで聞いておらず、アンケート対象者が駅周辺施設を利用しているのかどうか分からない。利用していない人に聞くことが、利用者の満足度を測ることにつながるのだろうかと思う。もうアンケートをしてしまっているのに、仕方ないというところはあると思うが、そもそもこの指標を変えないといけないと思うところもある。

事務局 「△」については、それらの事業が何らかの効果はあったが数値目標に達成していないという意味で付けています。「一」にしてしまうと、目標に関係しなかったということになるので、そういう意味で「△」を付けています。

また、駅周辺の利用者の満足度については、アンケート結果からも従前と事後で「どちらともいえない」という人が増えており、そもそも利用していない人がアンケートに答えているということなのだと思います。

事業が終わってからアンケートを行うまでの期間が短かったということもあり、そこを反省点として、まず施設を「利用した」「利用していない」というふるいをかけてアンケートするよう改善が必要であると考えています。

委員 アンケートを分析する時に、クロス集計で「利用した」「利用していない」などで分類をして比べるなど、いろいろ工夫して分析をしなければ結果は出てこない。そもそもアンケートの内容に問題があるということもある。

委員 従前の自治会で聞かれた当初のアンケートであるが、この方法でもっと数字を上げることはできないのか。駅周辺の人で、普段から利用する可能性がある人に聞く必要があると思う。

事務局 委員がおっしゃられるように、そういう形で、クロス集計をし、分析する必要があるので考えます。

4 今後のまちづくりについての審議

事務局 (担当部署より説明)

委員長 審議のポイントのシートで確認させていただくと、今後のまちづくり方

策についてのご意見と、フォローアップ計画についての意見をいただきたい。まず、まちづくり方策についてご意見を願います。

私から1点、「歴史的街並みや既存公園の活用による継続性のあるまちづくり」について、今回の評価対象になっているのか。

事務局 当初の計画では、小路の整備を記載していました。

委員長 計画に入っていたのであれば、なぜ目標に入っていないのかと思う。3つの目標設定がされているが、これについての評価を今回行っていないということについて、どのように考えたらよいのか。当初の評価の対象になっていないが、事業には入っており、これについて評価はしないということではよろしいのか。

事務局 本来なら、当初の計画策定時に評価対象としておくべきだったと考えます。別事業の「街なみ環境整備事業」として整備を進めており、地域の組織と協議しながら実施しているところです。

委員長 「街なみ環境整備事業」として別に事業評価をされており、今回は評価しなかったという理解でよろしいか。

事務局 はい。5年に1度、見直しをかけながら事業を実施しています。

委員長 そうであれば、「ここは評価しない」ということをきちんと書いておかないと、なぜ評価しないのかわからない。事後評価には書いてなくて、まちづくりの方策のところでいきなり出てきたので唐突である。

委員 市民ホールについて、残された未解決の課題の部分のところで、現地視察の際に、職員から年間の収入に比べて維持管理経費がかなりかかるということを知った。これは大きな課題であり、普通の会社だと2～3年で潰れてしまう。収入をどれだけ高めるのかなど課題であり、今後10年も経つと施設の改修が出てきて何億円もかかる。

委員長 こういうことは課題に対応して方策として盛り込まないといけない。

委員 例えば52ページにあるように、達成されたこととして「歴史的街並みの形成が推進された」と書いてあるが、残された未解決問題にも「歴史的街並みの形成を図る必要がある」と書いてある。結局、課題として何が残されているのかわからない。

事務局 今後検討して、具体的なことを盛り込んでいきます。

委員 言葉がわかりづらいということである。例えばその上の、「居住区域と河川の物理的、心理的距離の解消」と書いてあるが、物理的な解消はできな

いのではないか。

事務局 従来は堤防がなく、堤防に上らずにアクセスできたという状況があるという意味で記載しています。

委員 それがわかるように書いてほしい。他にもそういったところが見受けられる。

事務局 ご意見を踏まえて、表現をわかりやすく改善します。

委員長 丁寧に見てほしい。55 ページに「アンケートを行う場合は合同で行う」と書いてあるが、「合同」とはどういうことか。

事務局 他部署と連携してアンケートを行うという意味で「合同」としています。

委員 そういうことなら「合同」と書かなくていいのではないか。また、フォローアップではアンケートだけでなく、他に何かあるのではないか。利用者にインタビューするとか、直接意見を聞くなどいろいろある。

委員 河川空間の利用頻度については、利用人数もわかるようなので、しっかり利用されていることも付け加えていけばいいのではないか。実際に充足できる数字があるのに使わないのはもったいない。

委員長 今のご意見は大変大事なことで、この評価は、点の評価ではなく、中心市街地の面的な評価だということである。混同しないように、きちんと整理した形でフォローアップもしっかりしてほしいと思う。

委員 議論とは関係ないが、三次市の中心市街地はこんなに大きいのか。こんなに大きくなるのが普通感覚だと思うが、広いために、あれもこれもあって評価しづらくなってきている。特に、都市マス等で定義するときは、きちんと地域の市街地を把握した上で計画を立てなければ、すべてが分散してしまって收拾がつかない状態になる。一般的には中心市街地を決めて、そこに投資を高めていこうという考えである。

委員長 今回の評価とは別の話であるので、その他の意見としてお受けする。

それでは今まで出た意見について、再度確認する。「議事3 事後評価手続き等にかかる審議」の「成果の評価」については、アンケート調査について、駅周辺の利用に関しては配布した地区のバランスが従前と事後とで違い、配布方法も違っており、バイアスを生んでいる。河川に対してのアンケートについては、季節性（春と秋）のバイアスが生じている。フォローアップに当たっては、これを踏まえて検討していただきたいと思う。次に、「効果発現要因の整理」について、○△等の定義を明確にする必要

がある。また総合化したものでは結果がでていますが、個別事業についての効果発現の説明が不十分であるため、参考資料などで整理が必要である。駅周辺の施設利用について、利用しているかどうかを踏まえて満足度を聞くことが必要であり、フォローアップで検討していただきたい。

次に「議事4 今後のまちづくりについての審議」について、まず歴史的街並みについて、別途「街なみ環境整備事業」において評価しているので、今回の評価には盛り込んでいないことをきちんと書く必要がある。

2つ目として、市民ホールの運営、特に財務面に関して、収支のバランスの改善についての課題と対策について盛り込むべきであるという意見が出た。

3つ目としては、「達成されたこと」、「残された未解決の課題」の説明がわかりにくいため、わかりやすく記述をしていただきたい。

他にも多くの意見をいただいているので、事務局できちんと整理をしていただきたい。

以上がいただいた意見の内容だが、冒頭、市長から諮問を受けているので、当委員会としては総合的に見ると「事後評価の手続き等」は適切に遂行され「今後のまちづくりの方策」は妥当としながらも、答申の中で各委員からいただいた意見を明記していきたいと思う。委員会においての意見を事務局で整理していただき、意見具申を行い、今後の取組に反映いただくということよろしいか。

出席委員 異議なし。

委員長 これで本日の審議は終了した。ご意見を意見書として市長に提出する。意見書と議事録のまとめ方については、私と事務局で相談して作成し、もう一度みなさんのご意見をいただく機会を設けたいと思う。みなさんからご意見をいただいた上で最終案を作成するが、最終案の作成については私と事務局に一任していただきたいと思うがよろしいか。

出席委員 異議なし。

委員長 一任をしていただいた。本日の会議の議事録については、事務局で作成いただき確認したいと思う。以上で会議を終了する。